



俳優・武道家

藤岡 弘、

「死ぬまでに、どう生きるか?」という
生き様を極めるのが武士道の美学
「カッコよく死ぬ」なんて
そんな甘いもんじゃない!!

取材・構成／八木賢太郎

海外にもその名を轟かせる俳優であり、先祖代々の武術を継承する国際武道家。大河ドラマ『真田丸』では本物の甲冑を身にまとい、新作映画『仮面ライダー1号』でも生身でアクションシーンを演じるなど、芸能生活50年を越えてもなお衰えぬガチぶりを発揮する藤岡弘、が、考えの甘い『大武道!』に痛烈なダメ出し!

迷うことなく最後の生き様を見せようというのがサムライ魂なんです

現在、僕はNHK大河ドラマの『真田丸』に出演して徳川家康の家来である本多忠勝を演じているんですが、こういう役を演じるときにいつも思うのは、戦国時代の人たちは毎日を「生きるか、死ぬか」という覚悟を持ってやっていったわけだから、いまの時代の考えで演じるのではダメなんじゃないか、ということです。僕の父は武道家で、先祖代々武術を継承する家柄でした。その父のもとで僕も6歳から武道を学んできました。そのなかで、本物の太刀や小太刀、薙刀、槍、手裏剣なんかを使っていると、当時の武将はこうやって命をかけてきたんだなという実感が迫ってくる。とても恐ろしいことだとわかるわけです。そのサムライの決意や覚悟、決断、信念というのは、いまの我々には想像もつかないものです。ですから、たとえそれが演技であっても、その当時の感覚を再現するにはそれだけの覚悟が必要だと思っています。

それを踏まえて、今回いただいたテーマの「カッコよく死のう」についてですが……。僕はまだまだ未熟で人様に語るような立場ではないんですが、それでもあえて言わせていただくならば、「カッコよく死のう」なんて、そんな甘いものじゃない!! ということですね。

たしかに『葉隠』には「武士道とは死ぬことと見つけたり」ということが書かれています。でも、あれは実は逆の意味で、「生き方を見つけた」ということなんです。「死ぬまでにどういう生き方をするかをつかんだ。だからもう、覚悟は決めた」ということで、「どう生きるか?」という生き様の美学なんです。

そのことを理解していないと、「武士道っていうのは死ぬばいなんだ」ということになってしまいうわけで、そうではないんです。究極的には大義、道義、信義、つまり正義に生きるのが本当の武士道で、「義を見てせざるは勇なきなり」の精神です。その生き方をどのように貫いて、どう心・技・体を極めるか、という修行の旅をしたのがサムライなんです。つまり、生きて、生きて、生きて、そして、どう人生をまっとうする